ぬれた折り畳み傘 楽々収納

予期せぬ雨で重宝するのが折り畳み傘だ。ただ、使った後、ぬれた傘の持ち運びに困った人は多いだろう。まもなく梅雨の季節。そんな悩みにぴったりのグッズが人気を集めている。（前田利親）

モノ

山崎産業（大阪市浪速区）の「SUSU スーパードライ傘ケース」（1280円）は、内側に吸水性の高いマイクロファイバー製のひだが付いており、傘の水滴を吸い取ってくれる。外側に水がしみ出すこともなく、すぐにカバンに入れても「書類などがぬれない」と好評だ。ファスナーを開いて裏返し、ひだの部分でカバンなどの水滴を拭き取ることもできる。

元々、同社はマイクロファイバーを使ったバスマットを扱っていたが、「高い吸水力を生かした新商品を」と開発し、3年前から販売。当初は黒だけだったが、購入者に女性も多く、昨秋にはカラフルな水玉柄を追加した。担当者は、「梅雨時を華やかに楽しんでもらえれば」と話す。

一方、まちラボラトリー（同市西区）の「ボトル・かさストッカー」（980円）は、かばんの外に装着するホルダー式。ベルトで傘を固定し、持ち手からつり下げる。

同社の本業は都市計画コンサルタント。まるで畑違いの分野だが、社員が「通勤電車で傘とカバンを持ち、つり革をつかむのは大変」と話すのを田中睦郎（ちかお）社長（49）が耳にし、それならば、と考案した。

ビニールマットなど様々な素材で試作を重ね、2年前の夏に完成。その後も改良を加え、現行商品が3代目だ。「折り畳み傘を持ち歩くようになれば、安価な傘を使い捨てることも減ります」と田中さん。傘の代わりに、ペットボトルや水筒も収められる。

大阪管区気象台によれば、今年の梅雨は平年並みの降水量だという。グッズを活用し、快適に乗り切りたい。

傘の水滴を吸い取る「SUSU スーパードライ傘ケース」（右）と、カバンに装着できる「ボトル・かさストッカー」＝金沢修撮影